

科目名 (英)	美容実習(アシスタントテクニックI)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	池田
学科・コース	美容師科1年	授業 形態	実技	総時間 (単位)	120 (4)	開講区分 曜日・時間	月曜日・水曜日 木曜日・金曜日
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
学校講師9年目、現在もサロンに立ちサロンワークをし、学生に今のサロンのリアルな現場の仕事を教える。アシスタントのヘルプ術、スタイリストになるために通る技術やフローでの身のこなし方、基本的な受付業務、バックシャンプー、サイドシャンプー、ブローを学べます。							
【授業を通じての到達目標】							
1セメスターで、現場実習でサロンにたってもパーマのヘルプ、クロスの素早い畳み方、ダブルドライ、カラーのヘルプ、基本的な受付業務、接客を習得出来る。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	1セメスターの授業説明、達成目標の共有。道具説明、名前記入。						
2	サイドシャンプーの展示でシャンプーの技術を見て、相モデルで技術が出来る。サロンの受付～お見送りまでの接客術を学ぶ。						
3	前回の復習と、シャンプークロス30秒練習、ブレーンリンス～コンディショナー～肩タオルまでの技術を学					ブレーンリンス10点満点。	
4	パーマのヘルプ術の基本を習得できる。クロス付け～シャンプー～肩タオル復習出来る						
5	パーマのヘルプ術の復習。シャンプー泡の質、時間配分について学ぶ。						
6	ヴィックでドライ～ハンドドライの練習。クロス付け～肩タオルまで15分～20分で技術をチャック出来る。						
7	ヴィックでダブルドライをして、ドライのヘルプの重要ポイントを、理解出来る。						
8	ヴィックでドライの中間テスト。バックシャンプーの展示を見て相モデルで技術が出来る。					ドライの中間テスト20点満点	
9	ヴィックでブラシブローの習得。バックシャンプー～肩タオルまで15分で技術習得。						
10	バックシャンプーの泡立てについて学ぶ。						
11	バックシャンプーブレーンリンス講師モデルでチャックを受けれる。						
12	カラーのヘルプ術、カットクロスの早畳などの、現場での細かいヘルプ業務を習得出来る。					バックシャンプー小テスト10点満点	
13	現場実習前の、技術復習、技術確認が出来る。バックシャンプーで定期テスト。					バックシャンプー定期テスト60点満点	
14	休み明け総復習、						
15	サロン営業の予約の入れ方、チームでのサロンワークのポイントを学ぶ。						
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	美容実習(カットⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山崎・長塚
		授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
学科・コース						曜日・時間	月曜日・水曜日
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>美容師(スタイリスト)として10年以上の経験を積んで来ました。 美容学校の講師としても長年携わって来ています。 毎年行われているヘアショー出演、スタイル撮影、カットコンテスト入賞等、サロン以外での活動も多数経験しています。 そこから得た経験と知識でベーシックからアレンジスタイルまで多くのカット知識を美容師になった時にいち早くスタイリストになれるようにお伝えしていきます。 目的:半年間の授業を通し、ワンレングス・グラデーションカットの基礎知識、応用技術を習得する。 概要:将来美容師として夢見る生徒の皆さんに自分の持っている経験・技術でサポートしていきます。 スタイリストとして基礎となるベーシックのカット理論をしっかり伝えていく。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
ワンレングスカット・グラデーションカットの基礎知識、応用技術を習得し、ウィッグで再現出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
カットウィッグ・カット、ブロー道具一式・雑巾 等							
回	授 業 概 要					WIG	テスト配点
1	ワンレングスカットの基礎知識と基本動作      ブロッキング練習					new A(茶)	
2	床平行ワンレングスカット      ブロッキング(8ブロック)					A(茶)	
3	床平行ワンレングスカット      ブロッキング(8ブロック)					A(茶)	
4	床平行ワンレングスカット      ブロッキング(8ブロック)					A(茶)	小テスト(5点)
5	ワンレングスカット(デザインカット)					A(茶)	
6	ベーシックグラデーションカットの基礎知識					new C(茶)	
7	中間試験      ワンレングスカット・ブロッキン込み					new B(茶)	中間(20点)
8	ワンレングスカット(デザインカット)					B(茶)	小テスト(5点)
9	ベーシックグラデーションカット					C(茶)	
10	ベーシックグラデーションカット					C(茶)	小テスト(5点)
11	レディースグラデーションカット(デザインカット)					C(茶)	
12	ベーシックグラデーションカット・ブローの練習					new D(茶)	
13	定期試験      グラデーションカット					D(茶)	定期(60点)
14	メンズグラデーションカット(デザインカット)					C(茶)	小テスト(5点)
15	フリーデザインカット					new E(金)	
【特記事項】				【評価について】			
				<p>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</p> <p>●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)</p> <p>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</p>			

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道 III Professional seminar III	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	尾崎・野村・岩本・神谷
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	月曜日、水曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>学校行事などと連動したサロン研究を進め、自分とマッチするサロンを探す術を学ぶ。 就職活動や現場実習に向けて履歴書の作成の基礎を学び、早い段階から就職への意識を持つ。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>同じ目標を持ち相互支援関係を築くことができる。 現場実習や進級時に必要な履歴書の作成(学歴、自己PR)。グループワークを通して、自分の強みを理解することができる。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	入学式振り返り・未来への宣誓文						
2	ITリテラシー						
3	美容業界講話						
4	自己理解・他己理解のためのグループワーク						小テスト10点
5	コミュニケーション力向上のためのグループワーク						
6	履歴書の基礎知識						
7	業界理解(サロンを調べる術を学ぶ)						小テスト10点
8	履歴書の応用知識						
9	履歴書の応用知識						
10	自己理解・他者理解のためのグループワーク						
11	履歴書の応用知識						中間テスト20点
12	コミュニケーション力向上のためのグループワーク						
13	業界理解(サロンを調べる術を学ぶ)						
14	夏休み課題共有グループワーク						
15	将来目標設定						定期試験60点
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	ヘアメイクアップ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	横田・岡田
学科・コース	美容師科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月・金曜 1・2・3・4限
【学習の目的】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>ブライダル業界・化粧品販売で経験のある講師達が、実際のヘアメイクの現場での経験を活かし美容師になった時の作品撮りや撮影現場で活かせるような技術を取得していく。</p> <p>ヘアアレンジではコテやピンニング、道具の使い方、アレンジの技術を基本から学び、いろいろなヘアアレンジが出来るようにしていく。</p> <p>メイクでは道具の種類や扱い方、メイクアップの1つ1つの技術を学び、相手に合わせたメイクアップが出来るような技術を取得していく。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>ヘアアレンジではコテの巻き方ピンニング、ブラシなど道具を使いこなし、編みこみやツイスト・波ウェーブなどアレンジの種類を覚え、いろいろなアレンジが出来るようにする。</p> <p>メイクでは道具の扱い方を覚え、ベースメイクやアイメイク・骨格に合わせたチークの入れ方・リップメイクなどナチュラルメイクの基本をマスターしアレンジやトレンドに合わせてメイクができるようにする。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
《メイク》メイク道具一式 化粧3枚 小さいビニール袋 化粧カール ティッシュ コットン 綿棒 《ヘア》ウイッグ クラップ 化粧 コテ ストレイトアイロン コーム ブラシ類 化粧カール ビン・ゴム類							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	【メイク】メイク道具のセッティングの仕方、スキンケア・ベースメイクの基礎知識・やり方						1
2	【メイク】前回の授業の復習・ブラシの使い方・アイシャドウの基本(縦割り・横割りグラデーション)						1
3	【メイク】アイラインの種類別引き方・ビューラーの使い方・マスカラのつけ方						1
4	【メイク】アイブローの理論説明・種類と描き方						1
5	【メイク】リップ・チークの理論と描き方						1
6	【メイク】トレンドメイク 韓国メイク・基礎メイクと韓国メイクの比較						1
7	【メイク】季節に合わせたメイク summerメイク編						1
8	【メイク】中間試験のデモンストレーション・練習						4
9	中間試験 (フルメイク40分)						20
10	【ヘア】ビンの種類説明・ピンニングのやり方						1
11	【ヘア】裏・表編み込みやり方と編み込みを使ったヘアアレンジ・スタイリング剤の使い方						1
12	【ヘア】くるりんぱ・ツイスト・波ウェーブを使ったアレンジ(編みおろし・ハーフアップ)						1
13	【ヘア】ゴムの使い方と一束の基礎・一束アレンジ(ポニーテール)						1
14	【ヘア】簡単ヘアアレンジ・期末試験のデモンストレーション・練習						5
15	【ヘア】期末試験(編み込みハーフアップ)						60
【特記事項】				【評価について】			
				<p>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</p> <p>●評価 A評価 (90～100点) / B評価 (80～89点) / C評価 (70～79点) D評価 (60～69点) E評価 (出席不良・評価資格喪失) / F評価 (0～59点・不合格)</p> <p>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する</p>			

科目名 (英)	運営管理	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋由香
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日1~4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師養成施設の講師歴は15年になります。会社員(従業員)また個人事業主(経営者)の経験もあります。将来皆さんが美容師として働く際に役立つと思われる専門知識だけでなく、美容師、顧客、従業員、経営者の観点から普段の生活にも参考になるような知識をお伝えします。 目的: 経営者の視点を理解し何を求められているのか、様々な視点から考えることができる基本的な知識を学び、美容の技術を習得する皆さんの力を顧客のために活かせるようにすることを目的としています。 概要: 美容師国家試験の筆記試験課目の1つです。この科目では、経営者の考え方や経営が果たす責任・役割、人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学びます。顧客満足、サービスとは何かを学ぶ授業です。							
【授業を通じての到達目標】							
美容師(社会人)に必要な基本的な知識を身に付ける。 様々な立場からの「物の見方・考え方」ができるように視野を広げ、世の中の変化と競争に対して、柔軟な対応ができる美容師になる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
運営管理							
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	本科目の説明。経営とは・経営者とは何か。経営が難しい理由とは何かを理解する。 経営資源と経営計画、経営戦略を知る。						
2	業界の概要、競争の変化を知る。資金管理の重要性を理解する。					小テスト 2点	
3	収支と損益とは何か、会計の考え方、コスト管理を理解する。 税金の種類、税金の申告について知る。					小テスト 2点	
4	人という資源、人の能力を高める方法(労務管理・採用・給与・福利厚生)を知る。					小テスト 2点	
5	労働者の権利(労働三法)とは何か理解する。 健康管理、美容の仕事と健康(労働安全衛生法)について知る。					小テスト 2点	
6	美容の仕事と健康、美容業に特徴的な健康問題、作業環境に関する健康問題を理解する。 社会人としての責任・従業員としての責任について理解する。					小テスト 2点	
7	社会保険(公的年金、医療保険、労働保険)について知る。					小テスト 2点	
8	(登校) 中間試験					中間試験 20点	
9	社会保険(公的年金、医療保険、労働保険)について知る。					小テスト 2点	
10	社会保険(公的年金、医療保険、労働保険)について知る。					小テスト 2点	
11	顧客が求める価値と実態を知る。美容業のマーケティングを知る。					小テスト 1点	
12	マーケティング・ミックスの要因(短期的要因、長期的要因)を知る。					小テスト 1点	
13	接客の実践(店内環境、受付、提案・質問、説明・調整、謝罪)					小テスト 1点	
14	接客におけるトラブルと対応、接客で発生が予想される問題を知る。					小テスト 1点	
15	(登校) 定期試験					定期試験 60点	
【特記事項】 小テストは、teams(オンライン)で実施します。 中間試験と定期試験は、登校して、用紙で実施する予定です。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	衛生管理Ⅱ (Hygiene)	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	鈴木久美子
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日1～4限
学科・コース		美容師科					
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容専門学校卒業。数年間のサロンワークを経験後現在は各撮影やブライダルのヘアメイク業務に携わっています。将来皆さんが美容業に就くにあたっていろいろと参考になる知識や情報をお伝えする事ができます。 目的:不特定多数の人の皮膚や毛髪に直接触れ、刃物や薬剤などを用いて行う美容業務。その業務に就くうえで個人としての衛生を保つ事は元より、感染症の予防、衛生措置の重要性を学ぶ。							
【授業を通じての到達目標】							
衛生管理の意義と本質を明らかにする。国家試験科目でもあるため、各項目の重要点をまとめたプリントや問題集を用いてより理解を深める。また、問題集等を利用し苦手箇所を反復し克服する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
日本理容美容教育センター発行『衛生管理』教科書、プリント、問題集等							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	感染症《歴史、法律上の分類》						1点
2	" 《病原体の侵入、媒介経路の分類、微生物の種類》						2点
3	" 《病原微生物の構造、増殖と環境、病原性》						2点
4	" 《汚染感染発病、常在細菌叢》						2点
5	" 《免疫と予防接種》						2点
6	" 《感染経路、感染予防3原則》						2点
7	☆感染症 中間試験・1～6回重要ポイント等の確認フィードバック						20点
8	感染症《感染症の各論》						1点
9	衛生管理技術《消毒とは、消毒の意義、法の規定》						2点
10	" 《消毒法の種類、必要条件》						2点
11	" 《保存上の注意、理学的消毒法、化学的消毒法》						2点
12	" 《すぐれた消毒法の条件、消毒薬の概要》						1点
13	" 《器具の使い方、希釈法、器具類の消毒》						1点
14	後期総復習						
15	☆後期期末試験・8～13回 重要ポイント等の確認フィードバック						60点
【特記事項】毎回必ず名札を付ける事。中間・期末試験時は学生証も持参する事。配布されたプリントをファイリングできる物を用意する。				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	衛生管理Ⅱ (Hygiene)	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	鈴木久美子
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日1~4限
学科・コース	美容師科						
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容専門学校卒業。数年間のサロンワークを経験後現在は各撮影やブライダルのヘアメイク業務に携わっています。将来皆さんが美容業に就くにあたっていろいろと参考になる知識や情報をお伝えする事ができます。 目的:不特定多数の人の皮膚や毛髪に直接触れ、刃物や薬剤などを用いて行う美容業務。その業務に就くうえで個人としての衛生を保つ事は元より、感染症の予防、衛生措置の重要性を学ぶ。							
【授業を通じての到達目標】							
衛生管理の意義と本質を明らかにする。国家試験科目でもあるため、各項目の重要点をまとめたプリントや問題集を用いてより理解を深める。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
日本理容美容教育センター発行『衛生管理』教科書、プリント、問題集等							
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	講師自己紹介、オリエンテーション、授業科目の概要や進め方、公衆衛生説明						
2	公衆衛生《公衆衛生とは、欧米と我が国の歩み、歴史上の人物等》					2点	
3	" 《歴史の中の美容師、保健所と美容業との関わり》					2点	
4	" 《保健・母子保健の水準、意義、健康手帳の交付》					2点	
5	" 《保健・成人や高齢者保健、平均寿命、生活習慣病》					2点	
6	" 《保健・健康増進対策、高齢者の保健と福祉、医療保健制度》					2点	
7	☆公衆衛生 中間試験・1~6回重要ポイント等の確認フィードバック					20点	
8	環境衛生《内容や目的と意義》					2点	
9	" 《空気と健康、空気成分や微生物》					2点	
10	" 《温度 湿度 気流と健康、衣服 住居の衛生》					2点	
11	" 《上下水道、廃棄物》					2点	
12	" 《衛生害虫、ネズミ被害》					1点	
13	" 《環境保全、水質汚濁》					1点	
14	前期総復習						
15	☆前期期末試験・8~13回 重要ポイント等の確認フィードバック					60点	
【特記事項】毎回必ず名札を付ける事。中間・期末試験時は学生証も持参する事。配布されたプリントをファイリングできる物を用意(オリエンテーションで説明します)				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容技術理論 I	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	浅野大助
学科・コース	美容師科	授業 形態	筆記	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
						曜日・時間	火曜日(1~4限)
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
サロン実務23年、美容専門学校勤務歴20年。個人的にアカデミーを開校して美容技術を講習しています。色々な学校の通信による勉強をされていて、授業についていけなくなった方やサロンに就職したが、免許が取得できていない方などに国家試験対策講習をしています。基礎の理論を理解することで正しい施術は行えないことを理解しましょう。							
【授業を通じての到達目標】							
美容技術理論で基礎知識を学ぶことで、正確な施術を行うことが出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
美容技術理論1							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	オリエンテーション 序章、1章。美容理論について美容技術における作業姿勢、美容技術に必要な人体各部の名称についてしる。						
2	5)用具 2)コーム 3)ブラシ 4)シザー 5)レザ― 6)ピン類。ヘアクリップ 7)ロッド 8)ローラー 9)ヘアアイロン 10)ヘアドライヤー						
3	シャンプー 1)シャンプーイング総論 ①シャンプーイングの目的 ②シャンプーイングの目的の違い ③シャンプーイングのメカニズム ④シャ						
4	⑤シャンプー剤の種類 ⑥シャンプーイングの際の注意 ⑦ブラッシング 4)リンス・コンディショナー・トリートメント 5)スカルプトリート						
5	3章ヘアデザイン 1)美容とデザイン ①錯覚現象を美容に生かそう ②デザインの要素 ③デザインの原理						
6	ングとは 2)シザーズとレザ―の取り扱い 3)美容刃物 4)ヘアカッティングの正しい姿勢 5)ブロッキング 6)ヘ アカッティングの						
7	8)シザーズによるカット技法 ①プラントカット ②ストロークカット ③セニングカット 1章 2章 3章 の振り返り						
8	中間テスト						20点
9	⑥トリミングカット 9)レザ―によるカット技法 ①テーバークット ②セニングカット 5章 パーマネントウェービング 1)パーマ						
10	4章ヘアカッティング 5)ヘアカッティングの基礎理論 6)ベーシックなカット技法 7)シザーズによるカット技法						5点
11	5章 パーマネントウェービング 1)パーマネントウェーブの歴史と現在 2)パーマネントウェーブの理論 3)パーマ剤の分類						5点
12	5章 4)パーマ剤に関する注意事項 5)パーマネントウェーブ技術 6)ワインディングのバリエーション 7)縮毛矯正						5点
13	6章ヘアセッティング 1)ヘアセッティングとは 2)ヘアパーティング 3)ヘアシェービング 4)ヘアカーリング 5)ヘアウェービング						5点
14	バックコーミング 10)アップスタイル 11)ウィッグとヘアピース 今までの復習、振り返り、試験対策						
15	定期テスト						60点
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価</li> <li>A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点)/D評価(60~69点)</li> <li>E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)</li> <li>●評価方法</li> <li>評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			



科目名 (英)	美容実習(カラーリング)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	横田・佐々木		
		授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日/金曜日		
学科・コース									
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)									
日々サロンワークに携わる講師が、半年間の授業を通じ将来皆さんがサロンで働く際に基本となる技術を実際のサロンワークに沿った形でお伝えします。 カラーの特徴、目的、テクニックなどサロンで必要とされている技術を理解、習得していきます。									
【授業を通じての到達目標】									
カラーリングの基礎知識、塗布テクニックを習得し、ウィッグで再現出来るようになる。									
【使用教科書・教材・参考書】					【授業外における学習】				
ウィック カラー道具一式 ダッカール スプレイヤー タオル 雑巾など									
回	授 業 概 要					ウィック	テスト配点		
1	ヘアカラーの基礎知識と基本動作 塗布練習					F(黒)			
2	ファッションカラーの塗布練習 ①バージン毛 ②リタッチ					F(黒)			
3	ファッションカラーの塗布練習 リタッチ					F(黒)			
4	ブリーチの塗布練習 フェイスフレーミング					F(黒)			
5	ブリーチの塗布練習 デザインカラー					F(黒)			
6	ウィーピング 練習					F(黒)			
7	ウィーピング 練習					F(黒)			
8	中間テスト ウィーピング					F(黒)	中間テスト(20点)		
9	ブリーチの塗布練習 フェイスフレーミング(ブリーチ)					A(茶)・F(黒)			
10	ブリーチの塗布練習 フェイスフレーミング(オンカラー)					A(茶)・F(黒)	小テスト(5点)		
11	レベルスケールの作成						小テスト(5点)		
12	ファッションカラーの塗布練習 レベルスケールにオンカラー					F(黒)			
13	ファッションカラーの塗布練習(バージン毛) 毛先にカラー塗布					F(黒)	小テスト(10点)		
14	定期テスト リタッチ					F(黒)	定期 (60点)		
15	デザインカラー					E(金)			
【特記事項】					【評価について】				
					<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>				

科目名 (英)	美容実習(ワインディング I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	山下
学科・コース	美容師科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師になる為の国家試験の実技科目20年以上の実務経験あり。国家試験合格の為の対策と傾向、統計を知っている。自らのサロンも運営しており現場の技術や美容師としての心構えなどを、取り入れながら授業を展開します。基礎知識に重点を置き、国家試験の第二課題の審査項目、技術を習得できる。							
【授業を通じての到達目標】							
ワインディング技術の上巻き、下巻き 国家試験課題の全頭の構成を修得する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
道具一式、衛生用具一式、筆記用具、ノート				技術向上に向けての復習。			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	衛生用具の作成 道具の扱い方 センターのブロックング						
2	12ブロックングの構成						
3	下巻き導入 下巻き9本の確認						
4	右バックサイドを覚える						
5	左バックサイドを覚える					5	
6	両バックサイド 下巻き31本巻く					5	
7	10ブロックング、下巻き31本					中間テスト20	
8	上巻き導入 9ブロックング構成						
9	右バックサイド3本 右バックサイド9本						
10	右バックサイドタイムアップ						
11	左バックサイド6本 左右の確認						
12	全頭を巻く					5	
13	全頭のタイムアップ					5	
14	試験に向けて スライス、ステム、つながり、						
15	9ブロックング 全頭25分					定期試験60	
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点)/D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	美容総合技術 I Beauty Politekhнизм I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	長谷川・安田・野村
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	水・木曜日 1～4限
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>学生たちの持つイメージをスタイリングなどで表現し具現化できるように、美容師及び美容学校で長く実務経験を持つ教員が、実習を通じて授業を行い、技術をアピールする基礎力を身につけることができる。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>アイロン技術、スタイリングの技術、再現性を習得。 作品撮りの基礎手順・技術を身につける。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ウィッグ(ピンク台座)、クランプ、ドライヤー、カールアイロン、ストレートアイロン、シザーケース、リングコーム、ダックカール(5本以上)、タオル2枚、延長コード、雑巾、エプロン、筆記用具、名札、油性マジック、メモ帳、スプレイヤー							
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	カールアイロン技術(フォワード・リバース・巻きつけ)の体得・実践						
2	カールアイロン技術(フォワード・リバース・巻きつけ)のテスト					小テスト5点	
3	ウィッグの毛先カット カールアイロン技術(平巻き<内・外>)の体得・実践						
4	カールアイロン技術(平巻き<内・外>)のテスト ストレートアイロンによる波ウェーブの体得、実践					小テスト5点	
5	カールアイロン・ストレートアイロン技術(波ウェーブ)の復習 カールアイロン、ストレートアイロンを使用し再現する技術を身につける						
6	カールアイロンを使用し再現する技術のテスト					中間試験20点	
7	使用カットメンズセットについての技術を習得する(ストレートアイロンの使い方)						
8	作品撮りの基礎工程知識・作品撮りのメイクについての技術を学ぶ チームでコンセプト、テーマを決める					小テスト5点	
9	作品撮り(外部講師講習)						
10	作品撮り 練習					小テスト5点	
11	作品撮り 本番						
12	動画作成の基礎技術(外部講師講習)						
13	動画作成練習						
14	作品撮り、動画作成 本番					定期試験60点	
15	作品撮り、動画作成 発表・フィードバック						
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</li> <li>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	保健 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	米山 乃生
		授業 形態		総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間	前期
学科・コース		美容師科					
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>保健学は解剖学と生理学を合わせたような科目です。以前は「解剖生理学」という事もありました。          歯科大学で、解剖学、生理学を学び、卒業後は業の業界から臨床へ、その後教育の場へ、同科目の教育については、登録販売者・歯科助手・歯科衛生士・美容師を育てる専門学校にて20年ほど携わって来ました。          この科目は人体を取扱う職業人として、当たり前には持っていなければならない知識と言えます。          美容師を目指す皆さんに必要な身体(構造)＝解剖学と身体の働き(機能)＝生理学を楽しみながら学んでもらいたいです。          知らないことを知る！それが専門課程の勉強です。知的好奇心を全開に学習に臨んでください。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>美容とは美しく変容させること。          美しさとは内側と外側の連携にて表れる現象です。          どんなに素晴らしい化粧品を使っても、肌がボロボロでは活かせません。          疲れや悩みで表情が沈んでいては映えません。          お客様や身近な人の健康や栄養、静養方法などの相談に応えられる美容師を目指します。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
公益社団法人日本理容美容教育センター 保健学				配布物の管理、ノートまとめ、復習、練習問題の演習、ワークブックの演習、			
回	授業概要						テスト配点
1	・はじめに 保健学を学ぶにあたって ・人体各部の名称とは何か						
2	・頭部、顔部、頸部の体表解剖学について知ろう。						2
3	・骨の種類と構造 ・骨の連結 ・骨格の種類とその働きと該当する骨 について知ろう。						2
4	・筋肉の種類と神経支配 ・各部の骨格筋 について知ろう。						2
5	・表情筋 ・美容師と筋疲労 について知ろう。						2
6	・神経系の成り立ち ・中枢神経とその働き について知ろう。						2
7	中間テスト						20
8	・神経系の成り立ちの復習 ・末梢神経とその働き について知ろう。						
9	・感覚器系とは何か ・視覚 ・聴覚 ・平衡感覚 ・味覚 ・嗅覚 について知ろう。						2
10	・血液とは何か ・血球の種類やそれぞれの働き ・身体の防衛 について知ろう。						2
11	・血管の種類と血液の種類 ・心臓の構造と血液循環 について知ろう。						2
12	・リンパ管系の仕組みと働きについて知ろう。						2
13	・呼吸の種類 ・気道 ・ガス交換 について知ろう。						2
14	・呼吸運動 ・食物の通り道(消化管と消化運動) について知ろう。						
15	定期試験						60
【特記事項】 ★必ずノート、筆記用具をご用意ください。 教科書にマーカーしますので、蛍光マーカーもあれば良いでしょう。				【評価について】 ●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			